

平成22年度 第5回 鳥取市生活交通会議
議事要旨

1. 日時 : 平成23年1月26日(水) 9:30~11:30

2. 場所 : 鳥取市役所 本庁舎 4階 第3会議室

3. 出席者 :

会長〔学識経験者〕	鳥取大学大学院 工学研究科 教授	谷本圭志
副会長〔鳥取市〕	都市整備部長	田中政幸
委員〔住民・利用者代表〕	市自治会連合会(旧鳥取市,国府町,福部町)	南部敏
	〃 (河原町,用瀬町,佐治町)	谷村萬吉
	〃 (気高町,鹿野町,青谷町)	水上洋八
市老人クラブ連合会(旧鳥取市,国府町,福部町)	〃 (河原町,用瀬町,佐治町)	前田豊
	〃 (気高町,鹿野町,青谷町)	田淵丹次
	〃 (気高町,鹿野町,青谷町)	本部享司
	鳥取市連合婦人回	油谷都々江
	社会福祉法人鳥取市社会福祉協議会事務局長	岡本洋一
〔運送事業者〕	日ノ丸自動車株式会社 取締役営業部長	中村芳晴
	日本交通株式会社 バス営業部次長	中嶋敬治
〔事業者団体〕	西日本旅客鉄道株式会社 鳥取鉄道部運輸科長	三谷宏志
	鳥取県ハイヤータクシー協会東部支部長	橋本貞治
〔中国運輸局〕	私鉄中国地方労働組合 日ノ丸自動車支部執行委員長	村上恵
	鳥取運輸支局首席運輸企画専門官	丹下力俊
〔警察〕	鳥取警察署交通第一課長	樋口敬

事務局 : 鳥取市都市整備部交通政策室(中村、鈴木、澤田、遠藤)

その他 : バイタルリード(森山)

4. 次第 : 1) 開会

2) 会長挨拶

3) 協議事項

【地域公共交通会議】

案件1-1 鳥取駅 - 第二いなば墓苑間の乗合タクシーの運行計画について
(日本交通株式会社)

案件1-2 鳥取空港 - 鳥取砂丘間乗合タクシー運行計画について
(鳥取ハイヤー共同組合)

案件2-1 鳥取市地域公共交通活性化・再生総合事業の変更について

案件2-2 鳥取市地域公共交通総合連携計画の変更について

案件3 鳥取市バス路線再編実施計画 全体計画編(素案)について
南部地域実証運行編(素案)について

4) その他

5 . 議 事

案件1-1 鳥取駅 - 第二いなば墓苑間の乗合タクシーの運行計画について (日本交通株式会社)

- 事務局・日本交通(山本) 資料説明(過疎地有償運送に関する資料)
- 谷本会長 本案件は、この会議においての協議が調わなくても事業実施ができるのか。
事務局 車両定員については、会議による申請が必要であるが、その他に関しては事業実施に影響ないものと思われる。
- 丹下委員 道路運送法などによると、運賃、適用区間、乗車定員、最低車両数に関しては、会議で審議する必要がある。
事務局 最低車両数に関しては、5台以上確保するという事なので、今回の案件には入れていない。
- 橋本委員 運行日に関して、日曜日と彼岸だけなのか。墓への需要は、月命日などもあるため、それだけではもったいないのではないかと。また、運賃は市からの補助なしで設定しているのか。
事務局 不足額は市の補助を予定している。
橋本委員 11人という話があったが、セダンでもよいのではないかと。
事務局 11人未満ということなので、セダンも含まれている。実証運行を踏まえて、必要な車両を確認する予定である。
- 谷本会長 今後、実証運行を通じて、必要に応じて運行する日を増やすなどサービスの拡大は可能なのか。
事務局 事業の変更申請を行うことで可能である。
橋本委員 需要があれば、日本交通だけでなく、他のタクシー事業者も運行できるようにすることも考えて欲しい。
- 田中副会長 これは市の施策ではないのか。
事務局 市の補助金を入れた市の施策である。
田中副会長 そうであれば、タクシー協会から話があれば、特定の業者ではなく協会などを窓口として対応すべきではないのか。
- 橋本委員 今回は、事前に協議をしておき、導入経緯なども承知している。ただし、実証運行の結果、多くの需要が見込めるのであれば業界全体のために門戸を広げて欲しい。
- 田中副会長 これは都市整備部の事業なのか？
事務局 環境下水道部生活環境課の事業である。
中嶋委員 経緯を説明すると、今回の目的地に対して日本交通が運行していた路線バスを延長できないかという議論があった。議論の結果、路線延長ではなく、乗合タクシーでカバーするという話になったため、当社が運行を担うことになっている。
- 事務局 この運行に関する検討については、墓苑を管轄している生活環境課がおこなっている。運行を担うのは、日本交通でなければならぬということはないが、さきほど説明があったような経緯もあり業者が決定している。将来的に、運行事業者が1社でなければならぬということはない。

谷本会長 今後、やりたい業者があれば自由に参入できると理解してよいか。

事務局 自由に参入可能である。

田中副会長 通常の民間施設が、自らの施設へのアクセスのためにタクシー会社と契約することはある。今回は、それが市の施設へのアクセスなのであるが、そうであれば入札などを行い最も安い事業者と契約することが通常のやり方である。ただ、需要がわからないことなどから実証的にやるのであれば、今回のやり方でもよいかもしいが、説明できるような整理をしておくことが必要である。

事務局 ご意見のとおり、モデル事業として実証的に実施するものである。

田中副会長 それであれば、実証運行に際しては日本交通が運行を担い、需要が多く本格的に運行を行う際には、広く事業者選定を行うという整理をしておく必要がある。

事務局 仰せのやり方が通常の行政のやり方である。

中嶋委員 現在の運行計画は、輸送区間が限定しているが、自由な乗降が可能であれば、もっと需要が増えるかもしれない。また、便数も多ければ便利である。今回の事業は、便数も少ないため、多くの需要は期待できないかもしれない。あくまで実験であるという位置付けである。

谷村委員 費用対効果を考える必要がある。補助の基準はどのように考えているのか。

事務局 駅から墓苑までのタクシー料金から設定しており、4名乗車すれば採算が確保できるように考えている。

谷村委員 業者は、不足分を市から補填してもらえという仕組みか。

事務局 そうである。

前田委員 時刻表があるのか。

中嶋委員 時刻表を作成して、それに基づき運行を行う。

橋本委員 今後は、結果を見て業界全体で取り組めるような議論がしたい。

田中副会長 もし、需要が多く運行事業者にとっておいしい話であれば、入札をすべきである。需要が見込めずに運行に対するリスクがあるのであれば実証的にやるという整理にしておけばよい。

谷本会長 将来的には、事業者間での競争的な環境でやればよいと思う。この取り組みは、非常によいものである。きちんと道筋をつけて取り組んでいただきたい。それでは、本件に関しては承認としたい。

案件1-2 鳥取空港 - 鳥取砂丘間乗合タクシー運行計画について
(鳥取ハイヤー共同組合)

事務局・鳥取ハイヤー共同組合 資料説明

谷本会長 これは次年度からの運行継続ということである。利用状況をみると、採算ラインには届いていないようである。

橋本委員 採算性は悪いのであるが、その理由として PR が足りていないと思う。今後、このままやっても利用者数は伸びないと思われる。東京の空港での PR など必要であると思う。

谷本会長 山陰海岸ジオパーク登録の機運も高まっている。今の話はそのとおりである

と思う。ただし、これは県の観光政策の話である。
本件に関して承認とする。

案件2-1：鳥取市地域公共交通活性化・再生総合事業の変更について

案件2-2：鳥取市地域公共交通総合連携計画の変更について

事務局	資料説明
谷本会長	この事業変更に関しては、特に問題ないと思っている。何か意見はあるか？
田中副会長	事業の違いを整理したいが、地域公共交通総合連携計画は、これから市がやっていく基本計画で、活性化・再生総合事業は補助をもらうためのものである。そのような理解でよいか。
事務局	その考えだ。
丹下委員	事業の実施スケジュール表であるが、H23 まで企画・実証運行とあり、H24 年から実証運行と記載されているが、この表現はおかしいのではないか。H23 までの実証運行は消すべきである。
事務局	平成 23 年度までの実証運行の記載は削除する。
谷本会長	参考資料の事業費の合計値があわないのは何故か。
事務局	本資料では、当初の金額を記載している。
谷本会長	本件について、承認とする。

案件3：鳥取市バス路線再編実施計画 全体計画編（素案）について

” 南部地域実証運行編（素案）について

事務局	資料の説明
谷本会長	パブリックコメントでは、両方の検討書について意見をいただくことになるのか。
事務局	両方である。
谷本会長	中心部では、多くの路線が取り扱われていないが、この計画に入っていない路線については、今後どのように取り扱うのかについて、記載しなくてよいのか。
事務局	中心部の各路線に関して、当面は現状維持を考えている。
谷本会長	現状維持と確定するためには、この会議で議論が必要である。路線の見直しを今すぐ議論するのではなく、今後詳細な調査に基づいて運行見直しを行うなどの考え方について、取り扱いを明記することが必要である。
事務局	34 ページに詳細な調査実施後に検討と記載している。
谷本会長	記載していない路線の固有名詞を入れたほうがよいのではないか。
田中副会長	項目を新しく追加して、今後これらの路線をどうするのかを明確にしておくべきである。
谷本会長	個々の路線名称をあげて記載して欲しい。
南部委員	現況の整理に「不便と感じる点」があるが、これを踏まえて計画を行っているのか。

事務局 現況を整理したうえで、計画を作成している。

南部委員 そうであれば中心部に関しても各路線の名称を入れて説明すべきである。また、JR との接続であるが、接続時間が短いのではないか。

事務局 接続に関しては、多くの便を設定しているので、乗り継ぎの問題はないと考えている。

谷本会長 これは時刻表のイメージであり、最終版のものではない。計画自体に、JR の記載が問題とならないように見せる工夫をすべきである。

三谷委員 これは、JR とのサービスの比較ではないのか。

事務局 乗り継ぎの利便性を表現することを意図して記載したが、わかりにくい表現であったように思われる。

谷本会長 南部幹線バスと JR は連携を考えなくても、サービス水準が高く間違いなく連携するので問題ないと思われる。ただし、報告書の「時刻表は以下のとおり」という表現を変えて、意図することを説明すべきである。

中嶋委員 鳥取駅での接続を書いてあるが、用瀬から鳥取駅までの JR も運行しており、意図がわかりにくい。

三谷委員 因美線を抜いて山陰本線だけなら、南部幹線と山陰本線の乗り継ぎの利便性を示しているとわかりやすい。

田中副会長 用瀬から鳥取間は JR で何分かかるのか。現在の計画では、バスの方が早くなる。用瀬で利用者がバスと JR を選択できるようにすればよいと思う。

谷本会長 時刻表は、山陰本線への乗り継ぎ利便性などの意図を書けばよい。

三谷委員 豊岡行きなどの方面の記載を正確にして欲しい。

谷村委員 この計画では、南部の便数が増えて非常に便利になる。市民の移動手段の確保ということでは、ありがたいと思う。5 ページの具体的な運行について、佐治線の区域運行について、具体的な運行の計画を示して欲しい。

事務局 今後、詳細な検討を行う予定である。

谷村委員 事業の実施において、用瀬地区の拠点の場所であるが、駅の裏などがあげられているが、具体的な選定について、地域の再編計画とリンクするとよいと思う。事業の実現に向けては、運行まで時間が無いので、相当に力を入れる必要がある。

谷本会長 用瀬駅の乗り継ぎ拠点について、様々な関係主体との協議は進んでいるようである。

事務局 地域審議会でも説明をさせていただいている。平成 24 年後期の実証運行に関して、時間の無さについても指摘された上で、激励をされている。乗り継ぎ拠点の場所に関しても支所と協議をしている。関係主体と連携して、全市的に進めていきたいと思っている。

谷本会長 そのほかに何か意見は無いか。

水上委員 良い計画案ができていると思う。ただし、IC カードについて高齢者にとって良いものなのかがわからない。その当たりの検討をしておいて欲しい。また、南部の運行に関して、サービス水準が高く実現可能なのが気になった。ラッピングに関しても金がかかる。コスト削減も考える必要があるのではないかと。いきなり、ここまでやっても良いのかと気になった。さらに、マイカー利用者へのアンケート調査も考えるべきである。本当に公共交通への転換が可能かを調査すべきと思う。自動車からバスに転換するた

めの魅力づくりをいかに PR するかが重要である。

事務局 ご提案どおりである。乗りたくなるバスの一つとしてラッピングも考えている。マイカー利用者への意識調査も必要かもしれない。市として究極的には、補助金を減らしたいのであるが、多く乗っていただければ補助金も減らすことが出来るという考えで取り組んでいる。

水上委員 ラッピングは、金額がかかりそうなので気になっている。

谷本会長 場合によっては目標を決めて、実績があがればラッピングすることや、このこと自体をイベント化するなども考えられる。市民にバスにどのくらい乗っているかについて関心を持ってもらう仕掛けが重要である。

田中副会長 ラッピングは全ての車両にする必要はない。ただし、新しいシステム導入時にかっこよくすることで、関心を持ってもらい乗ってみようという気にさせることが重要である。

水上委員 全てではなく、数台で試す方法が良いと思う。

田中副会長 このような事業では、中途半端なサービス提供は良くないと思っている。施行後にサービスを下げるのは容易だが、上げるのは難しい。

谷本会長 これは、最後のチャンスだと思われる。細かな表現は事務局でチェックしていただくということで、この案を承認としたい。

4：その他について

事務局 ご指摘頂いた市内中心部等の取扱は、会長さんと相談させて頂き、パブリックコメントにかけたいと思う。2月7日～3月24日の予定としている。委員の皆様からも周知を図って欲しい。

谷本会長 他に何か無いか？

南部委員 JR をお願いしたい。山陰本線は海岸線を運行する観光等に重要な路線である。そのため、鳥取から京都まで特急を運行して欲しい。

三谷委員 違う会議等でも話をいただいているので本社を含めた勉強会を進めている。今年の4月から試行的に豊岡までの快速列車も取り組み予定である。利用があれば、設定していく。

南部委員 利用の実績は少ないと思うが…

三谷委員 最近の利用者が非常に少なくなっている。それにあわせて判断していくことになる。

谷本会長 いろいろな場面で検討会があると思う。できるだけ試行していく方向でやって欲しい。

以 上